

(10)九州



九州地域では、景気は弱いながらも回復の動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きも強い。

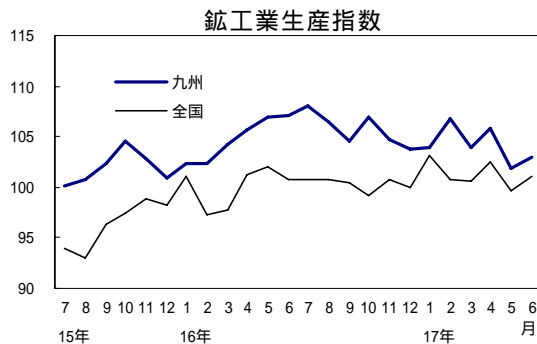
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 17 年 5 月）	今回（平成 17 年 8 月）	
個人消費	やや弱含み	持ち直しの動きがみられる	
住宅建設	大幅に増加	増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

電子部品・デバイスは、デジタル家電を中心に依然として調整局面が続いており、集積回路や液晶素子の生産が伸びず、足踏み状態となっている。輸送機械は、自動車において鋼材不足による生産調整の影響もなくなり、北米向けを中心に輸出が好調なことから増加した。一般機械は、フラットパネル・ディスプレイ製造装置や半導体製造装置、中国や東南アジア向けの船舶向けボイラー等の大型案件の受注が伸び悩んでいることから大きく減少した。食料品・たばこは、焼酎が引き続き好調だったものの、工場閉鎖の影響からたばこ、グルタミン酸ソーダが減少し、全体でも減少した。化学は、ポリエチレンやポリプロピレンといった汎用プラスチック樹脂が不調で減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
電子部品・デバイス	14.9	2.3	3.3	7.1	17.3
輸送機械	11.7	10.0	0.8	2.1	19.1
一般機械	11.0	9.5	12.0	12.0	1.6
食料品・たばこ	10.8	2.8	6.6	8.2	8.5
化学	8.5	2.1	4.1	3.5	2.0
鉱工業	100.0	0.2	1.3	1.6	0.3

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 4~6月期は速報値。

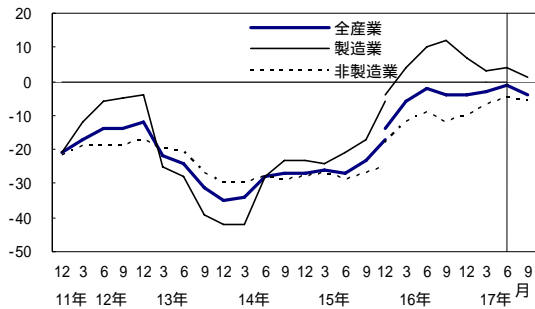
(備考) 1. 12年=100、季節調整値。

2. 平成17年6月の九州は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

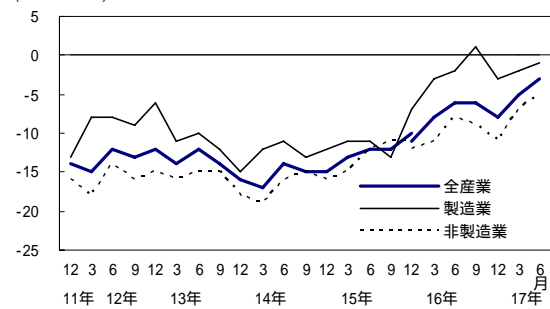
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



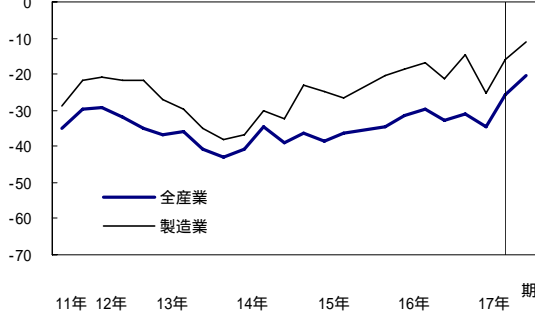
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年9月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「取引先の設備投資の意欲が向上してきており、それとともに引き合い案件も増え、若干ではあるが受注量も増加傾向にある(その他サービス[物品リース])」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、「建設業と飲食業は、単価、受注単価、顧客単価が現状まだ低いままである(金融業)」など、「変わらない」とする回答もみられた。

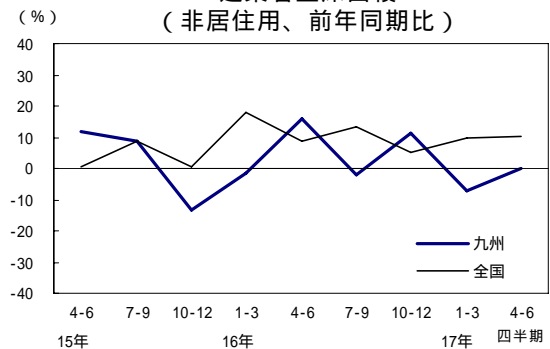
(3) 17年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	16年度実績	17年度計画
全産業	6.2(1.8)	5.8(1.3)
製造業	38.7(2.5)	17.0(5.7)
非製造業	8.3(1.3)	1.8(2.0)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

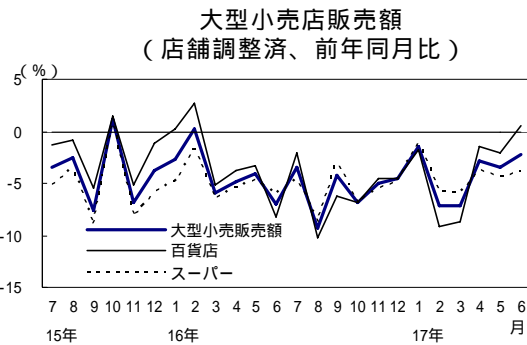
百貨店は、4月は、天候が良かったことや改装効果等により、飲食料品は前年並みを確保したものの衣料品が振るわず、前年を下回った。5月は、前年に比べ土曜日が1日少なかったことや、中旬以降の天候不順から、夏物衣料を中心に季節商材の動きが鈍く、前年を下回った。6月は、売場改装や中元商戦の前倒し効果により、飲食料品が好調だったほか、父の日とクールビズの相乗効果から紳士服を中心に夏物衣料に好調な動きがみられ、16か月ぶりに前年を上回った。なお、九州百貨店協会によると、九州地区の7月の売上高は、前年同月比で0.2%の増となっている。

スーパーは、6月にクールビズ効果から紳士服に動きがみられたものの、それ以外の衣料品関連や、鮮魚や野菜の不振から食料品の動きが悪く、20か月連続で前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「法人関係の売上は依然として悪いが、賞与が出たせいか、個人客が多少増えており、前年と同程度である(高級レストラン)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(前年同期比、%)

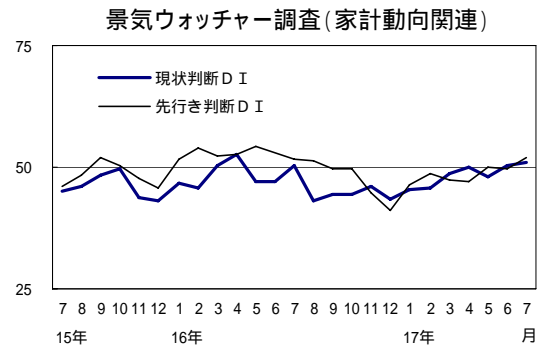
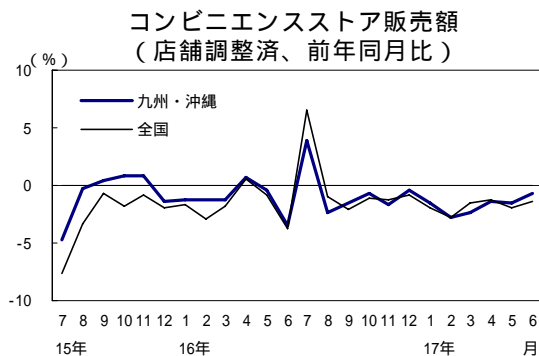


	16年7-9月	10-12月	17年1-3月	4-6月
大型小売店	5.6	5.4	5.1	2.9
百貨店	5.8	5.2	6.4	1.0
スーパー	5.6	5.6	4.1	4.1
コンビニ	0.0	0.9	2.2	1.2
景気ウォッチャー	45.8	44.6	46.6	49.5

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

九州・沖縄地区。

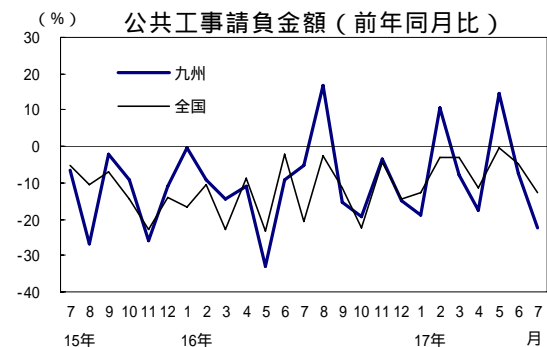
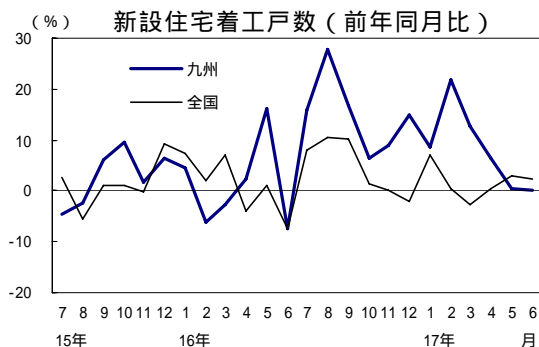
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

持家が前年を下回ったものの、貸家、分譲が上回ったことから全体では増加している。

(3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度を下回っている。

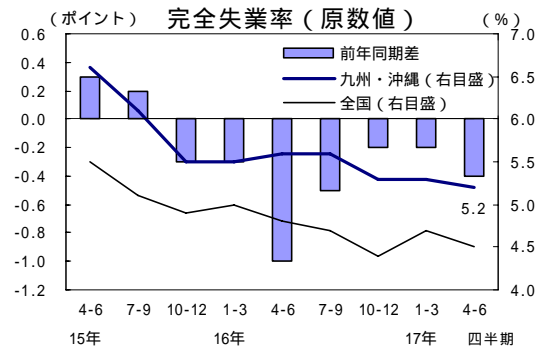
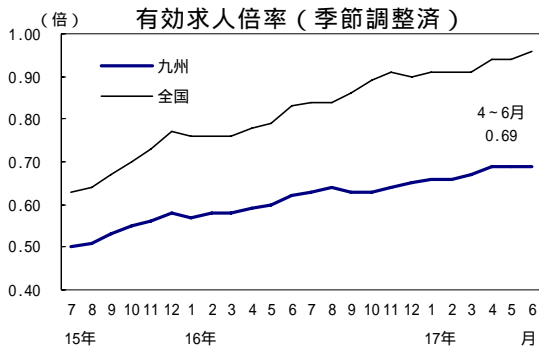


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きも強い。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]

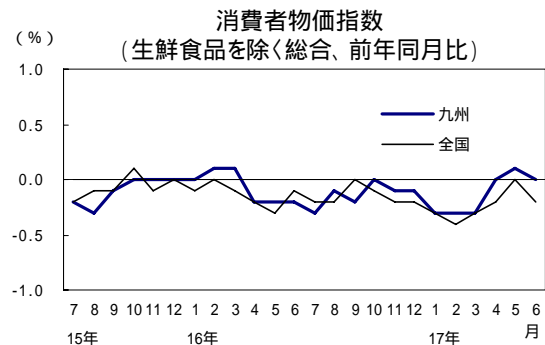
「全体の求人数が若干伸びている。パートタイムの求人数が減り、フルタイム求人の比率が高まっている（職業安定所）」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	（件、億円、％）				
	16年7-9月	10-12月	17年1-3月	4-6月	17年7月
倒産件数	283	299	275	315	75
（前年比）	22.0	10.7	8.3	9.8	27.2
負債総額	916	1,049	872	1845	209
（前年比）	49.7	47.1	10.8	72.4	24.1



景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・高額商品である宝飾・時計等の動きは活発でないものの、衣料品の動きが若干であるが良くなっている。クリアランス短期集中の傾向は変わらないが、プロパー秋物商材の動きが良い（百貨店）

<先行き>

- ・賃貸オフィスの空室率が数か月低下し、改善の動きがみられる（不動産業）

景気ウォッチャー調査（合計）

